



JOC in 熊本

ドイツへ向けての戦いが始まる。斑蛇口湖は今年も世界を目指す子供たちを待っていた。老体に鞭打ってボロボロの鬼火弾号は南へと進んだ。エアコンは効かず!メーターの針は止まり!それでも何とか到着してくれた。今回の運転は森川先生その他、山地父が担当してくれた。山地父の仕事は運転だけでなく、先生や子供たちのサポートは勿論だが、一番重要なお役目がある。森川先生のお守り・夜のお勤めが大変なのである。ま、嫌いじゃないから勤まるんだよね。ハッ

今年も『宝来館』に宿をとる。毎年お世話になる事が出来てるなんて嬉しいです。ここは何が良いって、とにかく大量の食事を出してくれる事。初日からすき焼きを鰯腹食った。

さるなげと津久井と一緒にだあ♡



山地父談



夕方、斑蛇口湖について艇を下ろす時には雷が鳴ってました。どうなることかと思っていたら、山から下りる時には雨も止み、ホッとしました。宝来館で今日は、おとなしく部屋飲みします!それにしても、宝来館の夕食、すき焼きのお肉の御代わり、半端ないです(笑)!

予選 4 上がり

1	森 猛 < 明治大学 > (東京)	3	3 46 47	5 43 02	7 42 68
2	野村 大貴 < 潮来 > (茨城)	2	3 43 62	5 41 49	7 41 62
3	東田 和季 < 瀬田漕艇クラブ > (滋賀)	1	3 46 06	5 41 83	7 39 58
4	大西 佑磨 < 関西 > (岡山)	4	3 46 06	5 44 39	7 43 55
5	北村 仁太 < 高石 > (大阪)	6	3 54 35	5 58 52	8 02 75
6	岡田 遼太 < 仙台大学 > (宮城)	5	3 47 94	5 47 08	7 47 82

1	松木 健汰郎 < 熊本学園大学付属 > (熊本)	6	8 09 83
2	森 俊介 < 関西 > (岡山)	4	7 55 26
3	野口 皓平 < 米子東 > (鳥取)	2	7 52 13
4	植村 篤希 < 若狭 > (福井)	1	7 49 08
5	三浦 圭祐 < 岡山 > (岡山)	3	7 55 06
6	河口 海平 < 東舞鶴 > (京都)	5	8 07 39

二人ともギリギリで予選通過しました。タイムは悪くないんだけどね。何となく心配です。

準々決勝 2 上がり

1	一瀬 卓也 < 長崎明誠 > (長崎)	5	1 52 65	3 53 42	5 54 11	7 54 06
2	中村 優志 < 横浜商業 > (神奈川)	4	1 52 29	3 49 92	5 50 97	7 51 53
3	伊藤 大生 < 南稜 > (埼玉)	3	1 47 86	3 45 20	5 44 25	7 42 14
4	宮浦 真之 < 小松明峰 > (石川)	2	1 49 95	3 46 37	5 40 31	7 35 17
5	大久保 亮 < 明治大学 > (東京)	1	1 45 74	3 39 59	5 36 92	7 32 73
6	森 俊介 < 関西 > (岡山)	6	1 51 68	3 51 98	5 52 92	7 55 16

1	尾崎 光 < 今治西 > (愛媛)	5	1 51 20	3 51 67	5 52 22	7 49 59
2	亀井 晃太 < 津久見海洋科学学校 > (大分)	6	1 56 66	3 58 05	5 58 24	8 01 88
3	古田 直輝 < 米子工業 > (鳥取)	1	1 46 56	3 39 59	5 32 92	7 27 62
4	菊池 渉太 < 猿投農林 > (愛知)	2	1 46 36	3 41 19	5 35 94	7 28 98
5	武田 朋也 < 美方 > (福井)	3	1 48 64	3 45 51	5 38 63	7 31 66
6	大西 佑磨 < 関西 > (岡山)	4	1 50 45	3 46 89	5 45 64	7 47 66

ボクらの道



あちゃ〜💀

森川先生のお言葉

大西は予選・準々決勝と大変厳しい組み合わせでした。準々決勝は日本代表「候補」が同じ組に4名が並ぶレース。大西は少しビビっていたようですが相手もビビっていたはず。私はレース前にこう言いました。「このレース、準々決勝の中で一番厳しい組み合わせ。でも、遅かれ早かれいつかこういうレースをしなければならんだろ？ただそれが早かっただけ。同じや！思いきって挑戦しろ。挑戦しないことが失敗や。逃げたらあかんでえ！！」と。

総じて敗因は何か？第一に「行動が遅い」。もっと先々を読んで早めの行動をして余裕を作って欲しかったです。予選の時はドタバタして出艇してました。自分で自分の首を締めていたような気がします。第二に「トップスピードの維持」。トップスピードはあまり変わらなかったはず?!しかし、その維持が出来ませんでした。スタミナ・体力不足かもしれません。特に大西はそのことを身をもって実感したはず。第三に「レーンを真っ直ぐ進ませる」。このようなレースで一回でもブイバコをするとその時点で **No Chance** です。森は一回のレースで何回もしていました。私は、レース中「沈」するのでは?とヒヤヒヤしてました。

順位決定戦

2	大原 良太 < 清風 > (大阪)	4				
			1 57 73	4 03 31	6 14 27	8 31 86
3	金子 怜生 < 早稲田大学高等学院 > (東京)	3				
			1 58 57	4 05 85	6 13 46	8 18 30
4	森 俊介 < 関西 > (岡山)	2	⇒	47位		
			1 59 35	4 04 71	6 13 68	8 18 10
5	亀井 晃太 < 津久見海洋科学学校 > (大分)	1				
			2 00 21	4 05 11	6 11 18	8 16 25
1	濱田 章吾 < 備前緑陽 > (岡山)	6				
			2 08 44	4 21 65	6 34 76	8 40 44
2	中村 優志 < 横浜商業 > (神奈川)	5				
			2 03 45	4 14 31	6 29 76	8 39 03
3	久保 如竹 < 保谷 > (東京)	2				
			2 01 78	4 09 44	6 17 99	8 20 77

4	大西 佑磨 < 関西 > (岡山)	1	⇒	28位				
		2 01 15	4 07 97	6 16 63	8 20 14			
5	石畑 修一郎 < 米子工業高等専門学校 > (鳥取)	4						
		2 03 75	4 13 83	6 27 29	8 35 42			
6	倉谷 祐大 < 今治工業 > (愛媛)	3						
		2 02 16	4 11 06	6 21 50	8 28 42			

今日は二人とも良く頑張りました！ 3日間で一番いいレースが出来たのではないのでしょうか？！ Good Job！！ by 森川先生

この後、鬼火弾号は入院した。先生も精根尽きはて『動きたくない症候群』を発病する。
まだ、中国大会と国体予選が残ってるのに・・・

森川先生のお言葉

ドイツへの道は途絶えてしまいましたが、生徒たちはレースをする度に上達していったように思われます。たかが順位決定（されど順位決定）ですが、最終日の順位決定戦が一番良いレースが出来たのではないのでしょうか？！ 彼らは、レース後自分自身に対していろいろと感じたはず。どうあるべきか？ 何がしたいか？ これは神様の声です。その声をその場しのぎにせず、ずっと忘れず、残り少ない高校ボートに活かして欲しく思います。（まあ、そうでないと意味がありませんが・・・）

男子選手

No.	氏名	所属
1	古田 直樹	鳥取県立米子工業高等学校
2	高田 直生	福井県立敦賀工業高等学校
3	中原 友朗	大分県日田高等学校
4	武田 匡弘	福井県立美方高等学校
5	大久保 亮	明治大学
6	野村 大貴	茨城県立潮来高等学校

ふ〜ん 米子強いなあ

中国大会

6月14・15日(土日)百間川で行われた。梅雨の晴れ間、お天気には恵まれた。

06/14 No.2 8:40

M2X 予選 1組

①位	米子工業高等専門学校	3:34.48
②位	関西高校 (松村・河田知)	3:39.41
3位	廿日市高校	3:45.95
4位	備前緑陽高校	3:57.84
5位	周防大島高校	4:10.15

06/14 No.7 9:30

M1X 予選 2組

①位	大西 佑磨(関西高校)	3:57.27
2位	佐々木 脩世(松江東高校)	4:05.09
3位	飯野 潤(鳥取商業高校)	4:09.33
4位	佐々本 翔(廿日市高校)	4:19.68
5位	橋本 駿(周防大島高校)	4:36.54

06/14 No.9 9:50

M4X+ 予選 2組

①位	関西高校A	3:26.90	(C 松上 S 光亦 3 森 2 河田重 B 田中)
②位	西市高校	3:29.77	
3位	松江北高校	3:34.90	
4位	江津工業高校	3:52.21	

06/14 No.15 11:20

M1X 予選 3組

①位	島田 滉大(江津工業高校)	3:50.14
2位	野口 皓平(米子東高校)	3:51.43
3位	岡 昂弘(宮島工業高校)	4:18.01
4位	伊藤 皓允(関西高校)	7:55.96

岡田 侃也(周防大島高校) 棄権

レースがスタートした。しかし、伊藤の姿が見えてこない3艇レースかと、どこに行っただのかと応援団はざわついた。目の前を3艇が通り過ぎていく。何があったのか分からないが「棄権か?」と思われた頃やっところらへ漕いで来るのが分かった。シートが動いていない。腕だけで漕いでいた。シートが外れようと、リガーのネジが緩も

うと本人の責任だ。敗復に回るためにも取りあえずゴールを目指した。応援団は声援をしない訳にもいかない。一人旅の伊藤にいつもの関西コールを送った。

06/14 No.17 11:40

M4X+ 予選 3組

①位	松江東高校	3:30.77	
②位	米子工業高校	3:41.82	
3位	広島工業大学高校	3:44.08	
4位	関西高校B	3:59.98	(C長坂 S松岡 3大倉 2山本 B柚鳥)

レース争いには参加してるようには見えなかった。一所懸命ついて行こうとしてるだけでした。デビュー戦を可愛らしく見せて頂きました。松岡はCOXしてたかと思うと、漕ぐし、今回はストロークと七変化してますね。山本母は久しぶりのゴーカイさで龍谷の内田母を思い出す。

06/14 No.28 14:20

M4X+ 敗復 2組

①位	松江工業高等専門学校	3:52.48	
2位	鳥取東高校	3:57.88	
3位	江津工業高校	4:01.38	
4位	関西高校B	4:15.31	

06/14 No.32 16:10

M1X 敗復 4組

①位	山田 裕太(大津緑洋高校)	4:12.33	
2位	飯野 潤(鳥取商業高校)	4:15.52	
3位	伊藤 皓允(関西高校)	4:27.45	
4位	橋本 駿(周防大島高校)	4:57.09	

06/15 No.35 8:40

M2X 準決 1組

①位	関西高校	3:33.33	
②位	米子工業高等専門学校	3:36.42	
3位	廿日市高校	3:41.74	
4位	宮島工業高校	3:49.06	
5位	鳥取商業高校	3:53.73	

500mで早めのスパートをかけ2艇を抜いて、そのままゴール！見ごたえのあるレースでした。河田知の父はボート経験者だそう。操山高校時代ボート部に所属されてたとか・・・。

サプライズの登場。若い女性が

「ここで一緒に応援させてください。」

と声をかけてきました。保護者にしては若すぎる。誰でしょう?お尋ねすると

「青江と申します。」

関西ボート部祝賀会名簿で見た記憶がある名前。そうなんです。関西高校の職員さん。日頃子供たちがお世話になっています。

「息子がお世話になって・・・ました。」

とご挨拶。過去形です。それもずいぶん前に成ります。現役ではないと直ぐに分かる挨拶です。自己紹介をせねばいけません。

「19年度卒です。」

「森本チームですね。」

正確で素早いお返事を頂きました。それだけでも嬉しいのに

「あの学年は成長が凄かった。と聞いています。」

親馬鹿が顔を擡げてきました。

「子供達もチームワークが良くて、保護者の方も仲が良かったんですね。」

7年も前の情報を良くご存じですな。勿論、私の事もご存じでした。毎年楽しみに読んで頂いているとの事、チョー嬉しいです。(早速登場していただきましたよ!) 草地夫妻を交えて暫し4人で歓談。1年の佐藤弟に聞いての応援参加となったようです。で、佐藤母を呼んでお話を……。準決勝の応援を一緒にして帰られました。こんな事もあるんですね。いや、これだから試合観戦は止められません!

06/15 No.40 9:30

M1X 準決 2組

①位	大西 佑磨(関西高校)	3:56.71
②位	山田 裕太(大津緑洋高校)	4:06.49
3位	佐々木 脩世(松江東高校)	4:08.63
4位	濱田 章吾(備前緑陽高校)	4:10.77

余裕があり過ぎて、スパートかけなくても勝っちゃった。

06/15 No.41 9:50

M4X+ 準決 1組

①位	関西高校A	3:28.94
②位	松江北高校	3:35.68
3位	西市高校	3:40.65
4位	廿日市高校	3:42.79
5位	米子工業高校	3:44.60

750mまで1艇身の差をつけていたが、気合いの追い上げにスパートが遅れる。ヒヤヒヤしながら、オールが止まるのを見守った。

長い休憩時間が訪れる。保護者が小銭を稼ごうと『かき氷』を売っている(森川先生指示)。今日は暑いので子供達が集団で訪れていた。中学生かな？ジュニアのレースも同時開催している。

お父さんたちの中にはスマホを取り出し、w杯サッカー観戦を始める者あり。途端、本田が1点先取！しかし、ハーフタイムに入ると雑談するしかない。

OBを探しに船台へ歩き出してみたが、真っ赤に日焼けしポッチャリに変身した H21 光亦兄にしか出くわさなかった。午前中の審判艇には H19 の安田君が乗っていた。H18 増成君がいるはずなんだが・・・。

戻ってみると H18 小林父が来場。「必勝定食」でお世話になってますよ!!

再びサッカー後半戦、パッとしないままコートジボワールはエースのドロクワを投入。立て続けに2点取られた。

階段のところに OBらしき人影。H17 の岸本君と山口出身の久村弟(日大卒)ではないかとの意見あり。分からないのでスルーするしかなかった。他にも差し入れを持ってくる OB やお手伝いの OB が沢山いたが掲示板に出てきた者しか知りようがなかった。

長浜さん・西崎さん・H18 増成君・H19 草地君・H19 植田君・H21 光亦君・H23 宮本君ご苦労様でした。他にも H24 岡田君が保護者と共に応援をしてくれたし、H19 安田君は審判をしていました。

06/15 No.44 12:00

M1X 決勝

1位	野口 皓平(米子東高校)	4:05.75
2位	大西 佑磨(関西高校)	4:09.17
3位	島田 滉大(江津工業高校)	4:12.10
4位	山田 裕太(大津緑洋高校)	4:31.37

750m まで1艇身差をつけてリードしてたのに・・・余裕で勝ってくれると思いついていた応援団は静まり返った。

「後半は盛り上がりなかったなあ。」

中々辛辣なご意見で・・・と、話を聞いていたら、サッカーの話だった。紛らわしいのお!!

06/15 No.46 12:20

M2X 決勝

1位	米子工業高等専門学校	3:46.48
2位	江津工業高校	3:47.85
3位	関西高校	3:49.97
4位	岡山東商業高校	3:53.18

ゴール手前で腹切りを見た。オールが空高く上がった。もしかしてこれで何とかなるか?と期待したものの、それでも差し切る勢いは無かったようだ。

06/15 No.48 12:40

M4X+ 決勝

1位	松江東高校	3:32.33
2位	関西高校A	3:34.50
3位	宮島工業高校	3:38.57
4位	松江北高校	3:43.83



大西君の写真が撮れなかったので..

芸人・アントニー



表彰式、優勝した高校は嬉し涙、そして惜しくも敗れた関西は・・・悔し涙。
この悔しさをいつまでも。(決して三日坊主になってはならない！)

苦しみのない者に勝利なし！！

by 森川先生



森川先生のお言葉

クオドの表彰式の時、優勝した島根クルーたちは嬉し涙を流していました。彼らは本当にうちに勝ちたかったのでしょうか？！（・・・とその顧問から聞きました）涙を流しながら優勝旗を受け取る選手を見て、私は賛辞の拍手を送ってやりました。では、うちはどうだったのか？知らない間に自分自身に安住して挑戦者であることを忘れていたのでは？！ライバル以上に勝利意欲があったの

か?! 勝負である以上、誰だって勝ちたい。しかし、楽しんで勝ちたいと考えていたのでは?! ……とってしまいました。とにかく苦しみのない人間に勝利はありません。勝利者の覚醒、死ぬほど努力した者が目覚めるのです。

最後になりましたが、中国大会期間中、沢山のOBたちが水路委員等で大会運営をサポートしてくれました。さらに現役部員たちに差し入れまでしてくれました。本当に、本当に、本当に……ありがとうございました。m()m

国体県予選

6月22日(日)

ダブルスカル

レース NO3 9:24 決勝

- 2 備前緑陽
- 3 県立高校選抜
- 4 **関西高校 A(松村・大西)**
- 5 **関西高校 B**

備!中国ブロック大会へ!

クォドルプル

レース NO4 9:36 決勝

- 1 **関西高校 C**
- 2 県立高校選抜 C
- 3 県立高校選抜 A
- 4 **関西高校 B**
- 5 **関西高校 A**
(C 松上 S 光亦 3 森 2 河田重 B 田中)
- 6 県立高校選抜 B



スタート直後から突き放された。その差は縮まる事がなく、スパートをかけた瞬間縮まるかに思えたが、幻に消えた。

Aクルーは足取りも重く挨拶に来た。田中キャプテンは最初から涙をこらえ切れずにいた。26年続いたクォドの連勝もここで途絶えてしまったのだ。対照的なのはB・Cクルーだった。笑顔もこぼれていた。1年生の体格に来年、再来年を期待する声が聞かれたが素直に頷く気持ちは起きなかった。いくら来年があると言っても、神妙さの欠片も感じられない空気に違和感を感じたのは私だけだったろうか? ダブルのシートレース争いは熾烈なものに成りそうだ。誰が乗れるのだろうか。席は2つしかないのだ。

森川先生の嘆き

・・・某OB保護者の「初めての光景でした!」、表彰式での協会長の「新しいチャンピオンが誕生しました。」という言葉がずっと頭から離れません。

成年の部ではOBが頑張ってくれ、シングル・付きフォア共にブロック大会に出場を決めた。保護者から彼らの鍛え抜かれた立派な体格に感嘆の言葉が漏れた。あの胸から腕にかけて付いている筋肉、太ももの逞しさは今の田中チームには無いものだ。インターハイまで1か月、どうする?どうなる?

後日、森川blogに

6月22日、関西のクルーボートがついに負けました。いつかは負けると思っていたが、ついにその日が来てしまいました。一週間前の中国大会では第2位でしたが、実は私にとって中国大会よりも国体県予選のことで頭がいっぱいでした。関西のライバルは・・・県立高校3校による県立選抜クルー。そのメンバーのほとんどが負ければ引退だったはず?! だから、うちの部員には「彼らはそれ相当に覚悟でうちに挑んでくるぞ!」と常々言っていたのですが、中国大会後、どうも練習を通じて部員たちから「危機感」・「緊張感」が感じられませんでした。この危機感の欠如が、妥協を生んでこのような結果になったのではなからうか?と思います。危機感を持たせてやれなかったのは私の責任です。また、このチームは、本当の意味でのミーティングが出来ません。ただ上辺だけの「oooしましょう!」であったような?! そういったことでチーム内で助長も出来ませんでした。男だったらもっとお互いがプライベートセルフが交わるような熱い話し合いをしなければなりません。

主将の手記にこのような内容が・・・「(前文省略)自分は初心に戻りたい! 選抜大会前の頃と今を比べると何かが違う。あの頃は皆、チャレンジャーだった。いつの日か試合に出るのは当たり前、ポジションは何となく指定席みたいになっていた。」と。また、COXは「(前文省略)レース前日もクラッチが緩んでいた。その時点で結果は決まっていたと思っている人もいるが、自分たち全員で確認していれば済んでいたことだ。全員で個人のミスをカバーできるようなチームワークが出来てなかった。もっともつと言いたいことがあればその場ですぐに言い合えるような関係にしないといけない。」と書いていました。

とにかく残されたインターハイに向けて、自分がボート部にいたという「証」を見せるために、もう一度「初心」に帰って、「謙虚」な気持ちとなって日々努力していかなければなりません。

今のままでは終わらせない! 男だったら・・・「Reborn」や!!

もう日が暮れる。今来た道に帰れない。

以前の応援日記にも書いた事があるが、意見をぶつけ合ってきたクルーはリギング中に会話は無い。それぞれがそれぞれの役割を黙々とこなしている。リギングを見ていた保護者から聞いた話です。道具も阿吽の呼吸で手渡していく。全てが済んだ頃、COXが緩みが無いか1つずつコンコン、コンコンってチェックしていくんです。手際の良さというか、無駄のない一連の動きに感心して見ていたそう。

先生もクルーも勝つ時の空気が分かるようだ。歴代のCOXは試合前から『勝つな…』って分かったと言います。緊張でもなく、かと言って緩むことなく、その場に漂う空気が教えてくれるらしい。

今の関西にそれは無いようだ。古米チームの選抜ダブル優勝しか彼らは知らない。国体6連覇・日本一8年連続の栄光を知らない子供たちは目標が霞んで見えるのかもしれない。

国体ブロック大会

午前6時半ごろ出発し、8時半に到着。それからすぐに艇降ろしをしてリギングをして出艇。10時過ぎるとザワザワと波が出始め、コースはラフコンディションになりました。おそらくうちの連中は、この「横」波に面食らったのではないのでしょうか？

さて、明日はいよいよレース。たった3名しか来ておりませんが、関西TEAMの代表として来てるわけです。何としても「突破」して欲しく思います。

そう。さくらおろち湖の予定だったが、今年も開催できず錦海湾で行われることになった。普段穏やかな環境で練習しているので、不安もあるが兎に角頑張るって欲しい。

7月20日(日)

シングル

1位	鳥取選抜	3'39'30
2位	江津工業	3'43'14
3位	関西	3'49'18
4位	大津緑洋	3'58'15
5位	宮島工業	4'01'16

誰が乗艇したかは分かりません。掲示板にも記載がありません。

ダブル

1位	鳥取選抜	3'23'28
2位	岡山選抜	3'27'63
3位	松江東高校	3'29'56
4位	西市高校	3'32'20
5位	廿日市高校	3'38'93

シングル二回戦

1位	鳥取県選抜	3.46.46
2位	江津工業	3.52.04
3位	大津緑洋	3.59.56
4位	関西	4.00.97
5位	宮島工業	4.08.41

ダブル二回戦

1位	鳥取選抜	3'32'91
2位	関西	3'38'05
3位	松江東高校	3'40'78
4位	西市高校	3'46'61
5位	廿日市高校	3'53'35



夏休みに入った。どうやら合宿に行ってるらしい。玉川湖畔にいるらしい。